

小学校 6 年生調査の結果と考察【国語】

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を発揮する文脈を重視し、今年度は以下の問題が出題されている。

- 「書くこと」について、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題
- 令和 5 年度までの調査で課題が認められた内容（情報と情報の関連付け等）について状況を確認するための問題

2 学習指導要領の内容等から

○「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率より低く、その差がもっとも大きい）

分類			区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
					所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体				14	68	69	67.7
学習指導要領の内 容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	65.4	66.2	64.4	
		(2)情報の扱い方に 関する事項	1	87.6	87.5	86.9	
		(3)我が国の言語文化に 関する事項	1	72.5	75.3	74.6	
	思考力 判断力 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	3	61.2	61.6	59.8	
		B 書くこと	2	70.7	69.2	68.4	
		C 読むこと	3	70.0	72.0	70.7	

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体			14	68	69	67.7
評価の観点	知識・技能		6	70.3	71.3	69.8
	思考・判断・表現		8	66.9	67.4	66.0
問題形式	選択式		0			
	短答式		10	70.7	71.2	69.9
	記述式		2	60.2	61.9	59.7

【所沢市の結果のポイント】

- 「B 書くこと」については、全国及び県平均より高い。目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にできている。
- △「（3）我が国の言語文化に関する事項」においては、全国及び県平均よりも低い。日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付かせることが課題である。

3 各問題から

【考察】

○1二(1)「オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する」問題の平均正答率が、全国平均より高い。相手に内容を明確に伝えるには、メモにある「書き言葉」の順序を工夫する必要があるなど、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができている。また、日頃から授業において、対話的な学習活動が積極的に行われている成果と考える。

△3四「【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する」問題は、平均正答率が全国平均より低く、無解答率が高い。特に【原さんの読書の記録】を基に「読書を通じて、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができる」という読書の意義を捉えることができなかったことが課題である。

4 今後の対策

【課題に対する取組】

日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くためには、本などの中の言葉から自分を支える言葉を見つけたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにする。

児童質問紙において、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」という質問で肯定的に回答をしたグループの方が、問題「3四」の正答率が高いため、「読むこと」の学習との関連を意識して読書活動を位置付けるとともに、「朝の読書活動」や「読書の記録」等の具体的な取組を通して、日常的に読書に親しむことができるようにする。

小学校6年生調査の結果と考察【算数】

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を重視し、今年度は、以下のような問題が出題されている。

- 図形や割合、データの活用などにおいて、過去の調査で課題が見られた内容の学習状況を確認する問題
- 立体図形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察できるかどうかを問う問題
- 日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、数量の関係について考察できるかを問う問題

○「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

2 学習指導要領の内容等から

△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率より低い）

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	63	64	63.4
学習指導 要領の領域	A 数と計算	6	66.0	66.2	66.0
	B 図形	4	66.0	67.1	66.3
	C 測定	0	－	－	－
	C 変化と関係	3	51.9	51.7	51.7
	D データの活用	4	63.0	62.6	61.8

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	63	64	63.4
評価の観点	知識・技能	9	72.4	73.0	72.8
	思考・判断・表現	7	52.0	51.9	51.4
問題形式	選択式	5	75.2	76.0	75.3
	短答式	7	62.0	62.2	62.0
	記述式	4	51.4	51.3	51.0

【所沢市の結果のポイント】

- 「Dデータの活用」においては、全国及び県平均よりも高い。授業において、目的に応じてデータを集めて分類、整理をしたり、適切なグラフに表したりして統計的な問題解決ができている。
- △「B図形」においては、全国及び県平均よりも低い。授業において、観察、分類、弁別、構成・分解、作図など、作業的、体験的な活動を重視していく必要がある。

3 各問題から

【考察】

○4 (2) 「3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く」問題の平均正答率は全国平均より高く、無解答率は全国平均より低い。授業において、図をもとにして考えさせ、速さと時間、道のりの関係を捉えさせていることが成果として表れている。

△3 (3) 「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」問題は、平均正答率が全国平均より低く、無解答率が高い。指導に当たっては、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べる活動を行う。その際、立方体を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径の長さは球の直径の長さと等しく、立方体の一辺の長さと等しいことを理解できるようにする。

4 今後の対策

【課題に対する取組】

児童質問紙の「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」という質問に対して、否定的な回答をしたグループの「3 (3)」の正答率が低かった。算数の指導計画においては、これまでに習得した知識・技能を日常生活で活用させる場面を設け、児童にその有用性を理解させていく。

図形の学習においては、図形を構成する要素、それらの位置関係などに着目させ、図形の概念を理解させる。その上で、図形の性質や計量の仕方を考察させたり、図形の性質を日常生活で活用させたりする。その際、図形の観察はもとより、分類や弁別、構成・分解や作図活動等、作業的・体験的な活動を意図的・計画的に取り入れ、実感的に理解させるようにする。

中学校3年生調査の結果と考察【国語】

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を発揮する文脈を重視し、今年度は、以下の問題が出題されている。

- 言語活動の充実が図られてきている状況を踏まえ、話合いの中の発言や文章から、目的に応じて必要な情報を取り出したり、目的に応じて文章を工夫して書いたりすることができるか問う問題。

2 学習指導要領の内容等から

○「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）
△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率との差が小さい）

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
		全体	15	60	59	58.1
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	61.2	59.7	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.1	60.2	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	77.0	75.2	75.6
	思考力 判断力 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	3	61.5	60.5	58.8
		B 書くこと	2	67.8	66.8	65.3
		C 読むこと	4	50.0	49.2	47.9

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
		全体	15	60	59	58.1
評価の観点	知識・技能		6	63.8	62.5	62.0
	思考・判断・表現		9	57.8	56.9	55.4
問題形式	選択式		9	62.8	61.7	61.0
	短答式		3	63.8	62.7	61.8
	記述式		3	48.7	47.7	45.5

【所沢市の結果のポイント】

- すべての項目において、全国及び県平均よりも高い。特に、「A話すこと・聞くこと」が全国と比較して平均正答率の差が最も大きい。授業において、話合いの目的や話題を意識し、話合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたり、互いの発言を結び付けて考えをまとめたりできるよう指導がされていることの成果である。
- △「(2)情報の扱い方に関する事項」においては、全国平均よりも高いが差が小さい。原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際の話や文章の内容を理解したり精査したりする際に、その関係を捉えることができるようにすることが大切である。

3 各問題から

【考察】

○1「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問題の平均正答率が、全国及び県平均より高く、無解答率も全国平均よりも低い。質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、目的や状況に応じて質問できるような言語活動が充実してきていることが成果である。

△3四「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」問題は、平均正答率が全国より高いが、無解答率も高い。自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているかを確かめるよう指導をする。また、用いた語句や表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのような働きがあるのか確かめる学習を充実させる。

4 今後の対策

【課題に対する取組】

「（２）情報の扱い方に関する事項」の指導において、相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりする場面では、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報の関係について理解させることが重要である。また、「話したり聞いたりする活動」や「説明的な文章を書く活動」、「文章を読み理解したことや考えたことをまとめる活動」などとの関連を図る。さらに、意見とそれを支える根拠を示して発言することができているかなど、発言を振り返る学習活動を位置付ける。その際、具体的な発言を取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、示した根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、情報と情報との関係を捉えることができるよう指導する。

中学校 3 年生調査の結果と考察【数学】

1 問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を重視し、今年度は、以下のような問題が出題されている。

- 大問 1 ～ 5 では、数学の学習過程において問題発見・解決する際の、ある局面に限定した問題
- 大問 6 ～ 9 では、数学的活動を行う文脈を重視し、設定された場面において問題を数学的に解決する問題

○「成果」と考えられる項目（全国の平均正答率より高く、その差がもっとも大きい）

△「課題」と考えられる項目（全国の平均正答率との差がもっとも小さい）

2 学習指導要領の内容等から

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	54	53	52.5
学習指導 要領の 領域	A 数と式	5	52.2	51.1	51.1
	B 図形	3	42.5	42.4	40.3
	C 関数	4	61.1	61.1	60.7
	D データの活用	4	57.8	57.1	55.5

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			所沢市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	54	53	52.5
評価の観点	知識・技能	11	64.6	64.0	63.1
	思考・判断・表現	5	30.7	30.4	29.3
問題形式	選択式	5	59.3	58.7	58.5
	短答式	6	69.1	68.3	67.0
	記述式	5	30.7	30.4	29.3

【所沢市の結果のポイント】

- すべての項目において、全国平均より高い。特に、「D データの活用」では、データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるよう指導されている。
- △「C 関数」においては、全国平均よりも高いが差が小さい。具体的な場面における問題を表、式、グラフを用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。

3 各問題から

【考察】

○9 (1) 「二つの正三角形によってできる図形の性質を考察する場面で、三角形の合同を基にして証明する」問題の平均正答率は全国平均より高く、無解答率は全国平均より低い。授業においては、事柄が成り立つことを証明するための方針を立て、それに基づき、仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるよう丁寧な指導が行われている。

△1 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す」問題は、平均正答率が全国平均よりも低く、無解答率が高い。文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明したり、得られた結果やその過程から新たな関係を見いだしたりすることができるように指導することが大切である。例えば、 n を整数としていることや、偶数は2で割ったときに余りが0になる整数であることから、偶数を $2n$ と表せることを確認することが大切である。その上で、連続する二つの偶数は、ある偶数とその偶数に2を加えた数であることを確認し、連続する二つの偶数を「 $2n$ 、 $2n+2$ 」などと表現することを理解できるよう、丁寧な指導が大切である。

4 今後の対策

【課題に対する取組】

「関数」の理解を深めるため、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出させ、その変化や対応の様子に着目させ、表や式、グラフに表して関数関係を見出させるようにする。その際、表、式、グラフを相互に関連付けて理解させることが重要である。例えば、「式『 $y=ax+b$ 』の a や b の値は、グラフをいかに特徴付けるのか」などに着目させ、関数の概念を深めさせることが大切である。このような学習過程を通して、関数が日常生活の問題解決に有効に働くことを捉えさせ、その有用性を実感させる。